今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

〇6月9日～

先週のドル／円は方向感のない動きが続きました。
トランプ関税の行方がわからないため各国の金融政策がどうなるか予測が難しく、企業の業績予想すらできないという状態です。
EU（欧州）は先週0．25％利下げを決定しましたが１年続いた利下げサイクルの終了が近いということで、しばらく金利を据え置く可能性があります。
預金金利を2％にしましたがインフレ率が2％程度なので、中立金利（景気を冷やしも過熱もしない中立的な政策金利）に近づいたということでしょう。
日本は利上げ、欧州の利下げは終わり、米国はなかなか利下げをしないとなれば金融政策はやや引き締め的な状態が続くことになり、株価にとっては楽観的な状況ではありません。
トランプ大統領はパウエル・FRB議長に対して利下げを強く要求していますが先週末に発表された雇用統計もそこそこ強い内容だったため、すぐに利下げを急ぐ状況ではありません。
トランプ関税で経済指標が明らかに悪化した場合や債券市場に異変が起こり、金融市場が不安定になった場合は利下げに動くかもしれませんがトランプ関税でインフレ（物価高）がどうなるのかわからないため FRB もしばらく様子見となりそうです。
今週は米国でインフレ関連の指標発表があるので注目したいです。
ユーロの利下げがそろそろ終わりということで、ユーロ安の動きが終わり、長期的にユーロ高にトレンドが転換してくる可能性が出てきました。
ユーロ／ドルは月足で見ると今年になって陽線がずっと続いています。ユーロ／円の取引が多い人はユーロ／ドルのトレンドも一緒に見ておく必要があります。
ただし、欧州との関税交渉が上手く行かなかった場合はユーロが売られる動きが出るかもしれないため乱高下も想定しておく必要があります。
そして、期待されていた中国の習近平国家主席とトランプ大統領との電話会談も何かが決まったわけでなく、交渉はこれからということです。
９日にロンドンで通商問題を巡り、米国と中国は協議するということで、ニュースはしっかりと見ておきたいです。
すでに中国がレアアースの規制を入れていることが世界の自動車業界にマイナスの影響を与えています。欧州とアジアの自動車業界は強く中国に働きかけています。日本もスズキのスイフトが一時的に生産停止となるなど影響が出ています。
そして、地政学リスクが高まっていることにも注意がいります。
ウクライナが大規模攻撃を行ったことに対してロシアが反撃を開始しています。
また、イランと米国の関係悪化も心配です。

Copyright©（有）ユビキタストレーディング　All Rights Reserved

今週の相場はどうなる？

今週の相場はどうなる？

● テクニカルで見た重要ポイントは？

＜ドル／円＞

先週のドル／円は雇用統計の発表後に上昇し、145 円まで値を伸ばした後、144 円後半でマーケットが終了しています。
145 円台、146 円台は週足で見てもレジスタンスがきている水準なので、高値追いは危険です。
また、月足で見ても 1 月から 5 月まで高値が切り下がっているため円高トレンドが終わったと考えるのは危険です。
145 円を超えてくると 5 月末の高値の146．3円あたりが視野に入ってきます。
下値は144円を割り込んでくると 142 円まで下がるリスクがでてきます。
142 円は 4 月後半から何度かサポートされているレートなので、ここを割り込むと円高リスクが高まります。
142－146円程度のレンジを方向感なく動く可能性もあるため細かい売買がよさそうです。

＜気になるクロス円＞

クロス円は先週強い動きとなっているペアが多く、今週もこの流れが続くかどうかです。
クロス円が強くなっている理由はドル安です。
4 月以降、各国通貨に対してドルが弱くなっています。
ただし、ドル／円が大きく下がるとクロス円は下がってくるためチャートを確認しながらの取引になります。

＊クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

＜今週のファンダメンタル？＞

日本では 1－3 月期GDP（改定値）、4 月貿易収支などがあります。
米国では 5 月消費者物価指数、5 月月次財政収支、5 月卸売物価指数、前週分新規失業保険申請件数、6 月ミシガン大学消費者信頼感指数などの発表があります。
欧州では、ドイツで 5 月消費者物価指数、ユーロ圏で 4 月鉱工業生産などがあります。
ほかには、英国で 4 月GDP、中国で 5 月貿易収支の発表などがあります。

Copyright© （有）ユビキタストレーディング　All Rights Reserved